

2024年1月23日

報道機関 各位

国立大学法人東北大学

日本初 VRChat×東北大 メタバースで世界をつなぐ 国際教育における産学連携パートナーシップを締結！

【発表のポイント】

- メタバースの世界最大級プラットフォームプロバイダーVRChat社と東北大学は、日本の教育機関で初となるパートナーシップ契約を締結しました。
- 世界と日本の大学を、対面とオンラインのベストミックスで繋ぐブレンデッド教育において、国際的な協働学修でのメタバースの利用がより一層充実します。



HMDを装着してメタバースワールドで海外の学生と交流する様子

【概要】

メタバースの世界最大級プラットフォームプロバイダーVRChat 社と東北大学高度教養教育・学生支援機構は、日本の教育機関で初となるパートナーシップ契約を締結しました。東北大学では、海外の協力校と連携し「メタバース HyFlex Virtual Exchange (VE)」を実施しています。

今回のパートナーシップにより、海外からオンライン参加の学生と日本の対面参加の学生が協働学修する「ブレンデッド教育」においてメタバースの利用が一層充実します。また、国境を越えた協働学修における異文化理解のためにメタバースワールドを創造・活用した発表やディスカッションが可能になります。

学生たちは HMD（ヘッドマウントディスプレイ）を装着することで、より一層の没入感と臨場感を体験し、バーチャル空間での能動的かつ主体的な学びを深められます。メタバースの教育・研究利用における大学と企業との国際的な連携がさらに加速することが期待されます。

【詳細な説明】

研究の背景

東北大学は距離・国・文化等の壁を超えて世界とダイナミックに繋がる「東北大学コネクティッドユニバーシティ戦略」を展開し、海外の協力校と連携のもと、「メタバース HyFlex Virtual Exchange (VE)」を実施しています。この取り組みは、文部科学省の「大学・高専における遠隔教育の実施に関するガイドライン」に先進的事例として取り上げられました。授業にメタバースを利用するには、「人数制限が少ないこと」、また、「学生のニーズに合わせたワールドの作成や編集が可能であること」などの条件が重要です。加えて、教室参加とオンライン参加を両立させる HyFlex（ハイフレックス）授業においては、大学の教室からもアクセス可能であることや、教室でもケーブルをつなぐずに HMD が使用できる環境が必要で、VRChat 社のメタバースプラットフォームは国際的な協働学修環境に最適でした。

今回の取り組み

このたび、VRChat 社とのパートナーシップ契約の締結により、世界の協力校からオンライン参加をする学生と、日本の教室での対面参加の学生が協働学修するブレンデッド教育において、メタバースの利用が一層充実します。さらに、VRChat 社と、非言語的コミュニケーションを教育に取り入れるための「XR コミュニケーション研究」を始動しました。このパートナーシップをきっかけに 2023 年 12 月 2 日に開催された東北大学知の創出センター主催「XR 技術の教育・社会貢献ーメタバースと国際協創ー」第 2 回国際シンポジウムでは、VRChat 社の Strasz 氏がメタバースから講演し、また学生が VRChat 上で作成し

たメタバースワールドを、ドイツ、ケニア、日本から紹介するワークショップも開かれました。



図 1. メタバース HyFlex VE の概念図

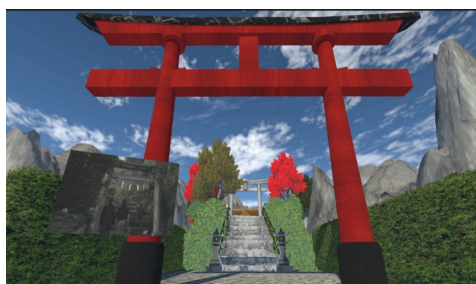


図 2. 参拝方法説明のために学生が作成したワールド



図 3. インドネシアの学校昼食体験のために学生が作成したワールド

今後の展開

内閣府は教育未来創造会議「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ」で留学生の大幅増加推進政策を打ち出し、Virtual Exchange (VE)などオンラインを活用したハイブリッド国際交流の推進を具体的方策として挙げています。メタバースを利用した対面とオンラインのブレンデッド教育は近年の学生の志向・ニーズにも大変マッチしたものです。

またメタバースワールド等を使用した受講学生の生の声での文化紹介は、他国や日本への関心をより一層高め、日本人学生の海外留学と、優秀な留学生の受け入れに繋がります。他方で、制度・経済的な理由で留学が困難な学生へ多文化の教育機会を提供でき、多くの波及効果が見込めます。

【日本人学生からのコメント】

- ◆ この授業ではメタバースを用いて文化理解を試みる世界最先端といっても過言ではない授業です！VRに興味のある人などはぜひ参加していただければ幸いです。
- ◆ この授業は国境を越えて様々な国の学生がメタバース上で意見を交流しながら自分たちのプレゼンテーションを発表する授業です。自国の文化・他国の文化を紹介するために学生自身がワールドを作成したりと多様なチャレンジを試みているのでぜひとも一度授業を見ていただきたいです。
- ◆ 各グループ、短い期間ながらも協力しながら、ワールドやスライドの作成を行いました。世界的に見てもあまり見られない授業風景だと思いますので、ぜひご覧になってください。

【海外から参加の学生のコメント】

- ◆ 学生たちが自分でワールドを作って、異文化への理解が深くでき、技術も上がりました。
- ◆ 最先端技術を活用するオンライン授業です。

【留学生からのコメント】

- ◆ この授業はクラスでそれぞれ国の文化と習慣を交流できますし、異文化を深く理解できる授業です。
- ◆ This course enables you to collaborate with Japanese students and experiences different perspectives in a special way.

【問い合わせ先】

(取材に関すること)

東北大学高度教養教育・学生支援機構

准教授 林雅子

TEL: 022-795-7972

Email:

masako.hayashi.c5@tohoku.ac.jp

(報道に関すること)

教育・学生支援部学務課学務企画係

TEL: 022-795-3819

E-mail: gaku-kikaku@grp.tohoku.ac.jp